

## 2. 松尾橋

桂川は、かつては丹波国と呼ばれた地域にある佐々里峠を源として、上桂川、大堰川、保津川と名前を変えて嵐山に至る川で、渡月橋の下流から桂川と呼ばれます。

嵯峨野の平野部を流れ、東へ曲がる桂川の西岸地域に松尾があり、川を挟んで東岸地域が梅津です。「津」と称するとおり、梅津は大堰川・保津川を利用して搬出された材木の揚陸地、水陸交通の要衝地でした。平安時代には西国に旅する人の乗船場だったところでもあります。「梅」の字を冠するとおり、梅の香の匂う里です。梅宮大社は今も梅の咲き誇る名所です。

この辺りの桂川は、和歌で梅津川と詠まれてもいます。梅津は平安時代、貴族たちが山荘を構えたところでもあります。例えば、関白藤原忠通がその一人です。「梅津の里」と和歌に詠まれ、また大江資衡は「梅津里」と題する漢詩を作っています。

松尾橋は、松尾・嵐山東地区から四条河原町方面を結ぶ四条通(京都市道 186 号嵐山祇園線)の一部を構成する道路橋です。

1880 年(明治 13 年)の絵図(「上山田村誌」収録)ではまだ松尾橋の記載はない。

1907 年(明治 40 年)9 月の「仮橋架設申請書」によれば、「松尾橋…明治 40 年 8 月 26 日強雨出水ノ為メ流失…」とあり、明治 13 年から同 40 年の間の架橋とみられる。地元の郷土史家の考察では、明治中頃の架橋ではないか、とのこと。



明治 28 年発行の『京都名所独案内』に「梅津川は、大井川の流なり此所に舟渡しあり山田渡しといふ材木を商う民家多し」とあり、明治 28 年には舟で渡っていたようです。

仮橋架設申請後の新たな橋は 1909 年(明治 42 年)3 月に架けられたが、1935 年(昭和 10 年)6 月の洪水で再び流出し、第二次世界大戦後まもなく(1945 年(昭和 20 年)10 月)にも川の氾濫で失われ、歴史的には三度の流出に遭っている。

木造のため流出を繰り返したこの橋も、1953 年(昭和 28 年)10 月に鉄筋コンクリートの永久橋として竣工し、その後 1971 年(昭和 46 年)に道路が拡張され橋長 200m、幅員 11m の橋となった。

令和 2 年(2020 年)10 月に、橋梁改修工事(橋梁長寿命化対策):橋梁用防護柵(景観配慮型) / アルミ製:道路・橋梁表面処理)、車線数:両側 2 車線・歩道両側現在は、景観配慮した橋梁改修工事も完了し、立派な橋です。

### 橋周辺

松尾橋は、京都中心部からも近く、最寄りの駅は阪急松尾大社駅で徒歩約 1 分という駅の近くです。

河川敷では、事前予約は不要で、無料で楽しめるバーベキュースポットとして愛されているようです。